



# やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

## ずっと、ずっとにつながる今、この時を大切に

あけましておめでとうございます。新しい年が始まりました。

毎年、正月を迎えるたびに、私だけのことも知れませんが、自分が生まれ変わったような、そんな心地がします。年末年始が、自宅と勤務先との往復でなく、いつもと違った過ごし方をし、人との出会いもあいさつも、いつもと違っているからでしょうか。将来について、どこか漠然とした不安と、それでもなんとかこなっていくんじゃないかという淡い期待もあって、しまいには、そこは初詣の神さまに「アンツ！！」と、そっくり任せてしまえ!?!?といった無責任さも手伝っているからでしょうか。ただ、とにかく少しでも納得のいく生き方がしたいと願っているというのは確かなことです。

子どもたちにとっては、お正月の三が日も終わりごろになると、「また学校が始まる・・・。」などといった、ため息交じりの時期かもしれません。しかしながら、学年が進むにつれて、「あと少ししたら今の学級の友だちともお別れだ。4月から新しい友だちや先生と、新しい教室で、新しい毎日が始まる・・・」と、先の見通しがもてるようになるものです。しかも「だから、今から準備をしておこう。今の教室、今の学年でできるようになったこと、わかるようになったことを心の中で整理しておこう。」などと考えられるようになっていきます。年末年始や学期の始めと終わりなど、節目節目で、子どもに「一年前のあなたからどれだけ変わったかな？わたしはどうか？」「あと少ししかないけど、それでもここから、わたしといっしょに少し自分を変えてみない？」などと語りかけてもいいかもしれません。こうした積み重ねの結果、人は、中学、高校、やがて就職と、自身の居場所が変わり、新たな出会いを繰り返すことにきちんと向き合えるようになるのです。

私は、昨年4月の始業式で、子どもたちへ「あいさつ」「なかま」「まなび」の三つの取り組みを大切にしてほしいと語りかけました。このことは、一学期の終わりにも、二学期のはじめにも、運動会や仲間集会、二学期の終業式でも取り上げ、自身をみつめるようにすすめました。この三つの取り組みは、三学期もしっかりと取り組んでほしいことです。「また、こんど」「あしたから始めるから」「そんなことより、今は・・・」と、自分に言い訳をすることなく、「今の自分を、今、ここから変えよう・・・」そんな生き方ができますようにと願ってのことです。「ずっと、ずっと」と、自身を育て続けていく姿勢を一生の宝物として身につけてほしいと願っています。

今のこの瞬間は二度とありません。今、今、今の積み重ねが、未来の自分を育てていきます。だからこそ、時には立ち止まり、自分自身を謙虚に見つめたいものです。大切にしたいこと、しっかりと取り組みたいことを見失わずにいたいです。

校長 大林 道範